

樹木医との意見交換メモ

テーマ：公園・里山を安全で豊かな自然環境として育てる

1. 桜保全活動について

五位の池小学校の桜

昨年度、五位の池小学校で桜のワークショップを実施した。

11月と1月の2回に分けて、樹木観察、土壌改良、肥料やりなどを行った結果、今年の春は桜がきれいに咲き、学校や保護者からも好評だった。

今年度も継続実施の希望があり、栽培委員会の児童を中心に、再度ワークショップを行う方向で検討する。

樹木医からの主な助言

- 今年度は、まず桜の健康チェックを行う。
- 枯れ枝の確認と、必要に応じた枯れ枝落としを行う。
- 土が固くなっているため、根元周辺に穴をあけ、水や空気が入りやすい状態をつくる。
- 穴あけ作業は子どもには負担が大きいため、大人が中心となり、子どもは体験的に関わる形がよい。
- 10月～11月頃に健康チェックと枯れ枝確認、12月～1月頃に土壌改良や肥料やりを行う流れが考えられる。

今後の方向性

五位の池小学校では、昨年度の取り組みをベースにしながら、今年度は保護者や地域の方、大学生、市民ボランティアなども少しずつ巻き込み、桜を見守る人を増やしていく。

2. 妙法寺川公園の桜保全について

東須磨小学校でも、妙法寺川公園の桜を題材にした学習や保全活動への関心がある。現在、学校では桜の観察学習を行っているが、今後は水鉢づくりや水やりなど、実際に手を動かす保全活動も取り入れられる可能性がある。

検討ポイント

- 学校の年間学習計画との接続
- 1学年全体で実施する場合の人数調整
- 子どもでもできる作業内容の整理
- 地域住民や保護者が関われる仕組みづくり

今後の方向性

まずは学校側の学習内容を確認し、桜観察の延長として無理なくできる作業を検討する。水鉢づくりや水やりなど、子どもが「見る」だけでなく「育てる・守る」体験につながる形を目指す。

3. 樹木の安全確認・危険木の見方について

現地視察では、木槌で幹を叩いて音を確認する方法が紹介された。空洞や腐朽の可能性を簡易的に確認する方法として、地域活動やプレーパークでも参考になる。

樹木医からの主な助言

- 木槌は硬い木で作るとよい。
- 枝などを活用して、自作することも可能。
- 参加者が自分で木槌を作るワークショップにすると、樹木医の視点を体験できる。
- 危険木の本格的な診断には、外観確認だけでなく、必要に応じて専用機器による調査が必要。
- キノコの発生、幹の空洞、腐朽、枯れ枝などは重要な確認ポイントになる。

今後の方向性

プレーパークや公園活動では、専門的な診断とは別に、地域の人が木を見る力を育てることが大切。木槌づくりや樹木観察を通じて、「危ない木を見つける」だけでなく、「木の状態を知る」活動として展開できる。

4. 木の循環利用・炭づくりについて

総合運動公園には、低温炭化装置「エコタン」があり、伐採木などを炭にする実験が進められている。今年度は、子どもたちの環境教育の一環として、炭づくりを実施し、できた炭を北区の公園でのBBQなどに活用する流れを検討している。

想定している流れ

1. 観音山公園などで伐採木を確保する
2. 木材を50cm程度に切りそろえ、乾燥させる
3. 総合運動公園のエコタンで炭をつくる
4. できた炭を公園活動やBBQで活用する

樹木医からの主な助言

- 炭に向いているのは、カシ、コナラ、クヌギなどの硬い木。
- 桜は燻製用チップとしては需要があるが、炭には向きにくい可能性がある。
- 竹炭も面白い素材になる。
- 松ぼっくりや小枝を使った小さな炭づくりも、環境教育として面白い。
- 大型の炭づくりだけでなく、缶などを使った小規模な炭づくりも、子どもや地域向けには取り組みやすい。

法令・運用上の確認事項

公園内での焚き火や木材燃焼については、消防・警察・公園管理者との調整が必要。特に、伐採木をそのまま燃やす場合は「廃棄物の焼却」と見なされる可能性があるため、目的や扱い方を整理しておく必要がある。

今後の方向性

エコタンを使った本格的な炭づくりと、プレーパーク等でできる小規模な炭づくりを分けて考える。炭づくりを単なる作業ではなく、木の循環、里山管理、防災、遊び、食の体験につなげる。

5. 高取山の生態系・森林管理について

高取山では、登山道周辺に倒木や枯れ木が増えており、森林の手入れ不足が課題となっている。六甲山系全体でも、昔に比べて木が成長しすぎ、景観や安全面、生態系の面で課題が出ている。

樹木医からの主な助言

- 高取山を含む六甲山系は、土砂災害防止の観点からグリーンベルト整備の対象になっている。
- 木を単純に伐採するのではなく、防災機能を維持しながら管理する視点が必要。
- 眺望確保だけを理由に木を切るのは難しい。
- 伐採ではなく、剪定・下枝処理・間伐・しがらみ処理など、保全につながる管理方法を提案する必要がある。

- 切った木や枝を現地でしがら柵として活用すれば、土留めや落ち葉の堆積、土壌改善にもつながる。
- 高取山で活動する場合は、国交省・六甲砂防事務所・神戸市など、関係機関との調整が重要。

今後の方向性

高取山では、まず関係機関とグリーンベルトの考え方や管理区域を確認する。そのうえで、地域団体、登山会、学生、企業ボランティアなどが関われる森林管理の形を検討する。単なる景観整備ではなく、防災・生態系・登山道の安全・地域活動をつなげた提案として整理することが重要。

6. 今後の全体方針

今回の意見交換を通じて、樹木に関する活動は以下の3つの柱で整理できる。

① 樹木保全

桜の健康チェック、枯れ枝確認、危険木の見極め、保全計画づくり。

② 環境教育

小学校での桜学習、樹木観察、木槌づくり、炭づくり体験、プレーパークでの自然遊び。

③ 木の循環利用

伐採木の活用、炭づくり、竹炭、木材チップ、BBQ、防災や地域活動への展開。

今後は、各活動を個別に進めるのではなく、「公園・里山を安全で豊かな自然環境として育てる」という大きな目的のもとで、樹木医、学校、地域団体、行政、学生、市民が連携できる形をつくっていく。